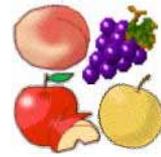




# 平成23年度 果樹情報 第4号

(平成23年5月20日)



福島県農林水産部研究技術室

1 気象概況（農業総合センター果樹研究所（以下、果樹研究所という））  
 5月1～3半旬の平均気温は、1半旬が14.2 で平年より0.8 低く、2半旬が16.2 で平年より0.5 高く、3半旬が15.5 で平年より0.1 高く経過しました。  
 この期間の降水量は0.5mmで平年の1.2%でした。

2 土壌の水分状況  
 果樹研究所のリンゴ園（草生栽培：無かん水）における土壌pF値は、5月15日現在、深さ20cmが2.0、深さ40cmが1.8、深さ60cmが1.8で、適湿の範囲となっています。

3 発育状況（果樹研究所）  
 (1) モモの満開は、「あかつき」「ゆうぞら」とともに4月27日で、いずれも平年より6日遅れとなりました。  
 (2) ナシの満開は、「幸水」が5月2日で平年より5日遅れ、「豊水」は4月28日で平年より4日遅れとなりました。  
 (3) リンゴの満開は、「つがる」が5月7日で平年より6日遅れ、「ふじ」が5月5日で平年より4日遅れとなりました。  
 (4) オウトウの満開は、「佐藤錦」が4月30日で平年より5日遅れとなりました。  
 (5) ブドウの展葉は、「巨峰」が4月30日で平年より5日遅れとなりました。

表1 開花状況（果樹研究所）

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
モモ	あかつき	4月18日	4月15日	4月18日	4月27日	4月21日	4月25日
	ゆうぞら	4月18日	4月16日	4月19日	4月27日	4月21日	4月26日
ナシ	幸水	4月25日	4月23日	4月29日	5月2日	4月27日	5月5日
	豊水	4月20日	4月19日	4月25日	4月28日	4月24日	5月2日
リンゴ	つがる	5月1日	4月26日	5月4日	5月7日	5月1日	5月6日
	ふじ	5月1日	4月27日	5月3日	5月5日	5月1日	5月5日
オウトウ	佐藤錦	4月25日	4月19日	4月29日	4月30日	4月25日	5月3日

注) 平年値は、1981～2010年の平均値（オウトウは1994～2010年の平均値）。

表2 発芽・展葉状況（果樹研究所）

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ブドウ	巨峰	4月19日	4月19日	4月20日	4月30日	4月25日	5月3日

注) 平年値は、1988～2010年の平均値。

4 開花予測（果樹研究所）  
 今後の気温が平年並に推移した場合、ブドウ「巨峰」の開花始めは6月10日で平年より4日遅いと予測されます。

表3 ブドウの開花予測日（果樹研究所 5月17日現在）

品種	ブドウ「巨峰」		今後の気温経過と開花予測日		
	昨年	平年	平年並み	2 高い	2 低い
開花始め	6月11日	6月6日	6月10日	6月7日	6月15日

注) 平年は1988～2010年の平均。

## 5 栽培上の留意点

### (1) 防霜対策

モモ、ナシ、リンゴなどでは幼果期を迎えています。凍霜害の危険性はまだ残されているので、引き続き気象情報に注意し、防霜対策を徹底してください。特に、ブドウやカキでは新梢伸長期に凍霜害を受けると、花器だけでなく新梢も障害を受けるため、十分注意してください。

また、以下のホームページに「凍霜害等気象災害防止対策について」、「果樹の生育ステージと防霜対策のための温度指標」を掲載しておりますので、参照してください。

URL <http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyuukaihatu/gijyutsufukyuu/seiikugijyutsujyohou.html#tokubetsujyohou>

### (2) モモ

#### ア 予備摘果

予備摘果は満開後15～20日頃から（花粉のない品種は果実肥大に差がつく満開後20日頃から）実施します。摘らい・摘花を実施しなかった場合や摘らい程度が弱かった場合は、必ず予備摘果を実施しましょう。

#### イ 新梢管理

5月下旬～6月中旬は新梢生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠内の枝葉が混雑しやすくなります。主枝、亜主枝の基部や側枝の基部など樹冠内部の徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し、樹体の健全育成に心がけましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか、最小限とします。

### (3) ナシ

#### ア 予備摘果

予備摘果は、満開後30日までに実施してください。果実のバラツキに注意し、果実の形質を良く確認して作業を進めましょう。

#### イ 新梢管理（芽かき）

予備摘果と併せて実施してください。主枝や亜主枝の背面から発生する新梢は基部葉2～3枚を残してせん除します。不定芽から発生した新梢が混み合っている場合は、芽かきで2～3本に整理するなど、適度な間引きを行います。また、予備枝は風による新梢折損の恐れがなくなったら先端新梢を一本に整理します。

### (4) リンゴ

#### ア 予備摘果

落花後7～10日を経過すると実止まりが確認できるので、確認でき次第予備摘果を開始し、満開後30日以内に実施してください。

結実良好な園では、予備摘果で長果枝や葉の少ない果そう及び肥大の悪い果そうの果実は全摘果を実施し、着果負荷の軽減を図りましょう。また、えき芽果の着生が多い園地では、早めに摘除しましょう。

### (5) ブドウ

#### ア 新梢管理

新梢が混み合っている部分や極端に強く花ぶるいの危険性が高い新梢、花穂を持たない弱い新梢の芽かきを行います。また、新梢が30～40cm程度伸びた頃から新梢誘引を行います。（「あづましずく」は新梢が硬く、基部から折れやすいので、無理に誘引せず時期を遅らせて行います。）

#### イ 摘穂・花穂整形

開花は平年より4日程度遅れる見込みですが、摘穂、花穂整形は適期を逃さないよう計画的に実施しましょう。

### (6) オウトウ

#### ア 着果管理

結実が確認でき次第、1花束状短果枝当たり3～4果（樹勢が適正な場合）を目安に摘果を実施します。なお、樹勢が強く新梢の生長が旺盛な側枝ではやや多めに、樹勢が弱い場合は少なめとし、葉数に応じた着果量としてください。

イ 雨よけ被覆・着色管理

生育は平年より遅れていますが、雨よけ被覆、着色管理などの管理作業は計画的に実施しましょう。

6 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴうどんこ病

乾燥条件が続くと発生が多くなるおそれがあるので、発生が多い園では、罹病部位をせん除し処分するとともに、落花2週間後の防除を徹底しましょう。

イ モモせん孔細菌病

春型枝病斑や葉・果実における発病部位、枯れ枝は伝染源となるため、見つけしだいせん除し適切に処分しましょう。また、5月中～下旬の防除を徹底しましょう。

ウ モモ灰星病

灰星病による花腐れから進展した枯れ枝を放置すると、モモの成熟期における果実への伝染源となるので、見つけしだい適切に処分しましょう。

エ ナシ黒星病

果叢基部病斑、罹病葉および罹病果は見つけしだい摘除するとともに、今後の防除を徹底しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第2世代幼虫の防除適期は6月2～4半旬頃になると推定されるので、この時期にあわせて防除を実施しましょう。

イ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ第1世代幼虫の防除適期は6月1～3半旬頃になると推定されるので、この時期にあわせて防除を実施しましょう。

ウ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ越冬雌成虫の防除適期は5月5～6半旬頃になると見込まれるので、ふ化幼虫の分散に合わせて防除を実施しましょう。また、クワシロカイガラムシの防除適期はウメシロカイガラムシより1半旬程度遅いため、防除時期に注意してください。

エ カメムシ類

越冬世代成虫による加害は幼果期から始まる場合があるので、特に山間及び山沿いのほ場ではカメムシ類の飛来状況をよく観察し、飛来が多い場合は速やかに防除を実施しましょう。

表4 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定(平成23年5月17日現在)

今後の 気温予測	リンゴモンハマキ		モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	越冬世代 発生盛期	第1世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2 高い	5月21日	6月2日	6月3日	6月8日	6月17日	6月26日
平年並み	5月23日	6月6日	6月6日	6月12日	6月24日	7月4日
2 低い	5月26日	6月11日	6月10日	6月17日	7月3日	7月14日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。